

『田舎暮らしの本』が発表する

## 2019年版「住みたい田舎」ランキング発表！

人口10万人以上 大きなまち

人口10万人未満 小さなまち

鳥取県鳥取市 **3冠** 大分県臼杵市 **2冠** 獲得！

新設【自然の恵み】部門1位は千葉県いすみ市、【子育て世代】部門では、島根県飯南町が初の1位！

雑誌販売部数トップシェア(※)の株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が発行する月刊誌『田舎暮らしの本』は、2019年1月4日(金)発売の2月号で、「2019年版 第7回住みたい田舎ベストランキング」を発表します。

「住みたい田舎ベストランキング」は、2013年2月号よりスタートしました。移住定住の推進に積極的な市町村を対象に、移住支援策、医療、子育て、自然環境、就労支援、移住者数などを含む220項目のアンケートを実施。663の市町村からいただいた回答をもとに、田舎暮らしの魅力を数値化し、ランキング形式で紹介しています。

ランキングは、「自然が豊かなところで田舎暮らしを楽しみたい人」と「都会の便利な暮らしも捨てがたい人」の双方のニーズに答えるため、人口10万人未満の「小さなまち」と、人口10万人以上の「大きなまち」の2つのカテゴリーに分け作成しました。

また今回は、田舎暮らしに求めるものとしてニーズの高い自然環境の良さや、自然の恵みの享受しやすさ、農林漁業への就業支援などを反映した【自然の恵み部門】を新設し、【総合部門】【若者世代部門】【子育て世代部門】【シニア世代部門】に加えて、全5部門で1位を選出しました。

「小さなまち」の【自然の恵み部門】では、千葉県いすみ市が1位を獲得。都心から1時間程度で、里海と里山の両方が楽しめるという好立地であり、「創業支援」が充実しています。

「大きなまち」では鳥取県鳥取市が、【総合部門】【若者世代部門】【自然の恵み部門】で3冠を獲得。移住前の相談から移住後のサポートまで、幅広い世代を支援する体制が整っており、2018年度は、若者や子育て世代の受け入れ体制を拡充したことから、昨年より4部門で順位を上げ2部門で1位、新設部門でも1位となりました。

「小さなまち」では大分県臼杵市が、【若者世代部門】【シニア世代部門】で2冠を獲得。有機農業で育てた野菜、臼杵湾で獲れる新鮮な海の幸など、豊かな食材に恵まれ、就業サポートも充実していることが評価されました。

また、移住者数が大幅に増加し、その8割が30代までの世代であった島根県飯南町が【子育て世代部門】で初の1位を獲得しました。

ふるさと回帰支援センター・理事長の高橋公氏によると、2018年の同センターにおける移住相談件数は、月当たり約3400件。17年より500件以上増えており、特に20～40代の若い世代の関心が高くなっているとのこと。幅広い世代で田舎暮らしへのニーズの高さは依然続いています。

編集長の取材も可能ですので、是非ご紹介いただければ幸いです。

※本ランキング情報掲載時は、

※日本ABC協会2018年上半期(1～6月)雑誌発行社レポートより

宝島社『田舎暮らしの本』2月号、「2019年版 住みたい田舎ベストランキング」と必ずご明記ください。

『田舎暮らしの本』  
編集長柳 順一 コメント  
(やなぎ・じゅんいち)

アンケート参加市町村に、今年度の移住者数の動向をたずねたところ、ランキング上位の市町村は比較的好調に推移していることがわかりました。本ランキングが、移住希望者のニーズを反映したものであることからその結果です。第7回となる今回は「自然の恵み」部門を新設しました。これは「日々の暮らしのなかで、自然の恵みを楽しむまち」のランキングです。移住先に自然の豊かさを求める多くの方のご期待に応えるものになっています。

『田舎暮らしの本』編集長

柳 順一 (やなぎ・じゅんいち)

1969年神戸市生まれ。1993年宝島社入社。『田舎暮らしの本』、パソコン本、『別冊宝島』などの編集部を経て2008年6月より現職に。

## ◆『田舎暮らしの本』



1987年に創刊した“日本で唯一”の田舎暮らしを紹介する月刊誌です。全国各地の物件情報や、田舎暮らしに必要なハウツーを紹介。お仕事情報など、実際の移住者レポートを交え、田舎暮らしに役立つ具体的な情報を発信しています。

2013年2月号から「住みたい田舎ベストランキング」を発表。

『田舎暮らしの本』2月号/定価:800円(税込)  
(2019年1月4日発売)

# 資料

『田舎暮らしの本』2月号では、

## ■「大きなまち」

総合部門：30位、若者世代部門・子育て世代部門・シニア世代部門・自然の恵み部門：各20位

## ■「小さなまち」

総合部門：50位、若者世代部門・子育て世代部門・シニア世代部門・自然の恵み部門：各25位のランキングを紹介しています。掲載に関して、お気軽にお問い合わせいただけますと幸いです。

# 2019年版 第7回「住みたい田舎ベストランキング」発表！

## ■大きなまちランキング

### 総合部門

- 第1位 **鳥取県鳥取市**
- 第2位 栃木県栃木市
- 第3位 静岡県静岡市

### 若者世代が住みたい田舎部門

- 第1位 **鳥取県鳥取市**
- 第2位 栃木県栃木市
- 第3位 長野県飯田市

### 自然の恵み部門

- 第1位 **鳥取県鳥取市**
- 第2位 長野県飯田市
- 第3位 静岡県浜松市

### ■市一丸となって魅力発信や移住支援に取り組んでまいります

このたび、3部門で1位の評価をいただいたことは大変光栄であり、うれしく思っております。2018年夏には、東京の吉祥寺駅に移住を呼びかけるポスターを貼ったことが、マスコミでも取り上げられるなど、これまで本市一丸となって魅力発信に取り組んだ成果と感じています。本市は雄大な鳥取砂丘を有し、自然が豊かで、適度に都市機能が整っており暮らしやすいまちです。ぜひ一度、お越しいただければ幸いです。

鳥取市長  
深澤義彦氏  
コメント

### 子育て世代が住みたい田舎部門

- 第1位 **栃木県栃木市**
- 第2位 鳥取県鳥取市
- 第3位 宮崎県延岡市

子育てと仕事が  
両立できるまちづくり  
を提案

### シニア世代が住みたい田舎部門

- 第1位 **福岡県北九州市**
- 第2位 山形県酒田市
- 第3位 栃木県栃木市

便利で、  
物価も安く、  
ゆったりできるまち

## ■小さなまちランキング

### 総合部門

- 第1位 **大分県豊後高田市**
- 第2位 島根県飯南町
- 第3位 大分県臼杵市

### シニア世代が住みたい田舎部門

- 第1位 **大分県臼杵市**
- 第2位 長野県辰野町
- 第3位 大分県豊後高田市

### 若者世代が住みたい田舎部門

- 第1位 **大分県臼杵市**
- 第2位 大分県国東市
- 第3位 島根県飯南町

### ■常におもてなしの心を持って移住者の方がたを歓迎。市民一体で住みよい臼杵市を

若者・シニアともに臼杵市をご支持いただき大変嬉しく思います。小さな取り組みを1つずつ重ねてきた結果だと感じております。臼杵市民は「移住者は新しい市民」という意識が強く、暮らしやすい環境が整っています。今後は子育て世代の皆さまにもより多くご支持いただけるよう、一層力を入れていきたいです。一緒に住みよい臼杵市をつくりましょう。

臼杵市長  
中野五郎氏  
コメント

### 子育て世代が住みたい田舎部門

- 第1位 **島根県飯南町**
- 第2位 茨城県常陸太田市
- 第3位 大分県豊後高田市

移住者を迎える  
温かさが魅力

### 自然の恵み部門

- 第1位 **千葉県いすみ市**
- 第2位 大分県臼杵市
- 第3位 長崎県五島市

都心からも近く、  
里海と里山の両方  
が楽しめる